

## 安全データシート

## 1. 化学物質等及び会社情報

化学物質等の名称	グリセリンゼラチン
会社名	武藤化学株式会社
住所	東京都文京区本郷2-10-7
電話番号	03-3814-5511
緊急時の電話番号	03-3814-5511
FAX番号	03-3815-4832
メールアドレス	<a href="mailto:mutopop@mutokagaku.com">mutopop@mutokagaku.com</a>
推奨用途及び使用上の制限	検査研究用

## 2. 危険有害性の要約

## GHS分類

物理化学的危険性  
健康に対する有害性

急性毒性(経口)	分類対象外 区分4
急性毒性(経皮)	区分3
急性毒性(吸入:ガス)	分類対象外
急性毒性(吸入:蒸気)	分類できない
急性毒性(吸入:粉じん)	分類できない
急性毒性(吸入:ミスト)	分類対象外
皮膚腐食性・刺激性	区分1A-1C
眼に対する重篤な損傷・眼刺激性	区分1
呼吸器感作性	分類できない
皮膚感作性	区分外
生殖細胞変異原性	区分1B
発がん性	区分外
生殖毒性	区分1B
特定標的臓器・全身毒性(単回ばく露)	区分11(呼吸器、心血管系、腎臓、神経系)
特定標的臓器・全身毒性(反復ばく露)	区分1(神経系 腎臓 呼吸器)
特定標的臓器・全身毒性(反復ばく露)	区分11(心血管系、肝臓、消化管、血液系、腎臓、脾臓、胸腺、中枢、神経系)

## 環境に対する有害性

吸引性呼吸器有害性	分類できない
水生環境急性有害性	区分2
水生環境慢性有害性	区分外

## ラベル要素

## 絵表示又はシンボル

注意喚起語  
危険有害性情報

危険  
飲み込むと有毒  
重篤な皮膚の薬傷・眼の損傷

重篤な眼の損傷  
遺伝性疾患のおそれの疑い  
生殖能又は胎児への悪影響のおそれの疑い  
呼吸器、心血管系、腎臓、神経系の障害  
長期又は反復ばく露による心血管系、肝臓、消化管、血液系、腎臓、脾臓、胸腺、中枢神経系の障害

水生生物に有害  
長期的影響により水生生物に有害

## 注意書き

### 【安全対策】

この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。  
適切な保護手袋、保護衣、保護眼鏡、保護面を着用すること。  
適切な個人用保護具を使用すること。

粉じん、ヒューム、蒸気、スプレーを吸入しないこと。

取扱い後はよく手を洗うこと。

環境への放出を避けること。

### 【応急措置】

皮膚に付着した場合、眼に入った場合、飲み込んだ場合、吸入した場合は、直ちに医師に連絡すること。

飲み込んだ場合：直ちに医師に連絡すること。

飲み込んだ場合、口をすすぐこと。

飲み込んだ場合、口をすすぐこと。無理に吐かせないこと。

吸入した場合、被災者を新鮮な空気のある場所に移動し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。

眼に入った場合、水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。

皮膚又は毛に付着した場合、直ちに、汚染された衣類をすべて脱ぎ又は取り除くこと。皮膚を流水又はシャワーで洗うこと。

汚染された衣類を再使用する前に洗濯すること。

ばく露又はその懸念がある場合、医師の診断、手当てを受けること。

気分が悪い時は、医師の診断、手当てを受けること。

ばく露した場合：医師に連絡すること。

### 【保管】

冷暗所にて保管すること。

### 【廃棄】

内容物、容器を都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託すること。

## 国・地域情報

### 3. 組成及び成分情報

#### 化学物質

化学名又は一般名	グリセリン	ゼラチン	フェノール	水
分子式(分子量)	HOCH <sub>2</sub> CHOHCH <sub>2</sub> OH	注参照	C <sub>6</sub> H <sub>5</sub> OH	
CAS番号:	56-81-5	9000-70-8	108-95-2	
官報公示整理番号(化審法・安衛法)	(2)-242		(3)-481	

注:ゼラチンの成分

ゼラチンはコラーゲン蛋白質を熱水処理してえられる水溶性蛋白質(分子量:20000~70000)である。

濃度又は濃度範囲	50%	8%	1%	51%
----------	-----	----	----	-----

#### 4. 応急措置

##### 吸入した場合

呼吸が困難な場合には、新鮮な空気のある場所へ移動し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。

##### 皮膚に付着した場合

直ちに医師に連絡すること。

水と石鹼で洗うこと。

直ちに医師に連絡すること。

直ちに、汚染された衣類をすべて脱ぐこと、又は取り去ること。

##### 目に入った場合

汚染された衣類を再使用する前に洗濯すること。

水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。

##### 飲み込んだ場合

医師に連絡すること。

口をすすぐこと。

直ちに医師に連絡すること。

予想される急性症状及び遅発性症状  
最も重要な兆候及び症状  
応急措置をする者の保護  
医師に対する特別注意事項

情報なし

データなし

データなし

データなし

#### 5. 火災時の措置

##### 消火剤

水噴霧、泡消火剤、粉末消火剤、炭酸ガス、乾燥砂類

##### 使ってはならない消火剤

情報なし

##### 特有の危険有害性

火災によって刺激性、腐食性及び/又は毒性のガスを発生するおそれがある。

不燃性であり、それ自身は燃えないが、加熱されると分解して、腐食性及び/又は毒性の煙霧を発生するおそれがある。

##### 特有の消火方法

危険でなければ火災区域から容器を移動する。

消火後も、大量の水を用いて十分に容器を冷却する。

##### 消火を行う者の保護

適切な空気呼吸器、防護服(耐熱性)を着用する。

#### 6. 漏出時の措置

##### 人体に対する注意事項、保護具および緊急措置

作業者は適切な保護具(『8. ばく露防止措置及び保護措置』の項を参照)を着用し、眼、皮膚への接触や吸入を避ける。

漏洩物に触れたり、その中を歩いたりしない。

直ちに、全ての方向に適切な距離を漏洩区域として隔離する。

##### 環境に対する注意事項

関係者以外の立入りを禁止する。

立ち入る前に、密閉された場所を換気する。

##### 回収・中和

環境中に放出してはならない。

漏洩物を掃き集めて密閉できる空容器に回収し、後で廃棄処理する。

##### 封じ込め及び浄化方法・機材 二次災害の防止策

水で湿らせ、空気中のダストを減らし分散を防ぐ。

すべての発火源を速やかに取除く(近傍での喫煙、火花や火炎の禁止)。

プラスチックシートで覆いをし、散乱を防ぐ。

#### 7. 取扱い及び保管上の注意

##### 取扱い 技術的対策

『8. ばく露防止及び保護措置』に記載の設備対策を行い、保護具を着用する。

##### 局所排気・全体換気

『8. ばく露防止及び保護措置』に記載の局所排気、全体換気を行う。

##### 安全取扱い注意事項

使用前に使用説明書を入手すること。



オクタノール・水分配係数  
分解温度  
粘度  
粉じん爆発下限濃度  
最小発火エネルギー  
体積抵抗率(導電率)

データなし  
データなし  
データなし  
データなし  
データなし  
データなし

10. 安定性及び反応性  
安定性

法規制に従った保管及び取扱においては安定と考えられる

危険有害反応可能性

高温面や炎に触れると分解して、有毒で腐食性のヒュームを生成する。

避けるべき条件

酸と反応して有毒で腐食性のヒュームを生じる。

混触危険物質

裸火禁止。高温面との接触禁止。

危険有害な分解生成物

酸化剤との共存不可

加熱分解により、フェノール、二酸化炭素、一酸化炭素などの有毒ガスを発生する。

11. 有害性情報

急性毒性 経口

ラットLD50=317mg/kg, 経口マウスLD50=270mg/kg,  
ヒト LDLo=140mg/kg

経皮  
吸入

データなし

吸入(ガス): GHSの定義による固体であるため、ガスでの吸入は想定されず、分類対象外とした。

吸入(蒸気): データなし

吸入(粉じん): データなし

皮膚に付着すると炎症を起こすおそれがある。

皮膚腐食性・刺激性

眼に対する重篤な損傷・刺激性

データなし

呼吸器感作性又は皮膚感作性  
生殖細胞変異原性

呼吸器感作性: データなし 皮膚感作性: データなし  
データなし

発がん性

OSHA の発がん性物質リストの成分を含まないが、成分のフェノールは、IARC の発がん性物質リストのグループ3(ヒトに対する発がん性については分類できない)に含まれる。

生殖毒性

データなし

特定標的臓器・全身毒性(単回ばく露)

データなし

特定標的臓器・全身毒性(反復ばく露)

データなし

吸引性呼吸器有害性

データなし

12. 環境影響情報

水生環境急性有害性

藻、クロレラ: 有毒 233mg/L, 1.060mg/L、  
イカダモ: LD0 = 40mg/L、  
カダヤシ: TLm24/48/96H = 61/56/0.001mg/L、  
ミジンコ: LD0 = 16mg/L、オオミジンコ: TLm25/50H =  
17/7mg/L、  
ブルーギル; TLm24/48/96H = 19/19/5.7mg/L

水生環境慢性有害性

データなし

13. 廃棄上の注意

## 残余廃棄物

廃棄の前に、可能な限り無害化、安定化及び中和等の処理を行って危険有害性のレベルを低い状態にする。

廃棄においては、関連法規並びに地方自治体の基準に従うこと。

## 汚染容器及び包装

容器は清浄にしてリサイクルするか、関連法規並びに地方自治体の基準に従って適切な処分を行う。

空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去すること。

## 14. 輸送上の注意

### 国際規制 海上規制情報

#### 航空規制情報

UNNo.

ProperShippingName.

Class

IMOの規制に従う。

ICAO/IATAの規制に従う。

1690

Sodium fluoride, solid

6.1

(注意: 物質純度に応じて、複数の国連番号あり)

### 国内規制 陸上規制情報

#### 海上規制情報

#### 航空規制情報

該当しない

船舶安全法の規制に従う。

航空法の規制に従う。

輸送に際しては、直射日光を避け、容器の破損、腐食、漏れのないように積み込み、荷崩れの防止を確実にを行う。

重量物を上積みしない。

## 15. 適用法令

### 労働安全衛生法

名称等を通知すべき危険物及び有害物(法第57条の2、施行令第18条の2別表第9)フェノール

### 化学物質排出把握管理促進法(PRTR法)

第1種指定化学物質(法第2条第2項、施行令第1条別表第1)

### 危険物

非該当

### 毒劇物

非該当

## 16. その他の情報

### 参考文献

各データ毎に記載した。

化学品安全管理データブック 化学工業日報社

製品評価技術基盤機構 GHS分類

化学物質評価研究機構 化学物質ハザードデータ集

化学物質規制・管理実務便覧 新日本法規

記載内容のうち、含有量、物理／化学的性質等の数値は保証値ではありません。危険・有毒性の評価は、現時点で入手できる資料・情報・データ等に基づいて作成しておりますが、すべての資料を網羅した訳ではありませんので取り扱いには十分注意して下さい。